

総務省による原子力の防災業務に関する
行政評価・監視結果に基づく勧告
(第二次)について

～文部科学省に対する勧告内容と今後の対応～

平成21年3月11日

文部科学省防災環境対策室

原子力の防災業務に関する行政評価・監視

総務省は、原子力事業所の周辺住民等の安全・安心を確保するため、原子力災害の応急対策及び予防対策に係る原子力の防災業務全般について、その実態を調査し、関係行政の改善に資するため実施。

文部科学省及び経済産業省に対して勧告（平成21年2月）

文部科学省の対応等

文科省のこれまでの取組

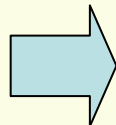
- 放射能影響予測を迅速に行うシステムの整備
- 被ばく患者に対する緊急被ばく医療の体制構築 等

着実な原子力防災業務を実施



原子力防災体制の充実・強化

より一層改善すべき点について勧告



本勧告を真摯に受け止め、早急に対応。

1. オフサイトセンター運営要領の改訂について

調査結果

茨城原子力安全管理事務所の
OFC運営要領に以下の記載がない。

- ・代替施設の設置場所
- ・代替施設への退避経路
- ・持ち出し物品の整理 等の退避方針

⇒ 避難対応に支障が出る恐れ



勧告内容

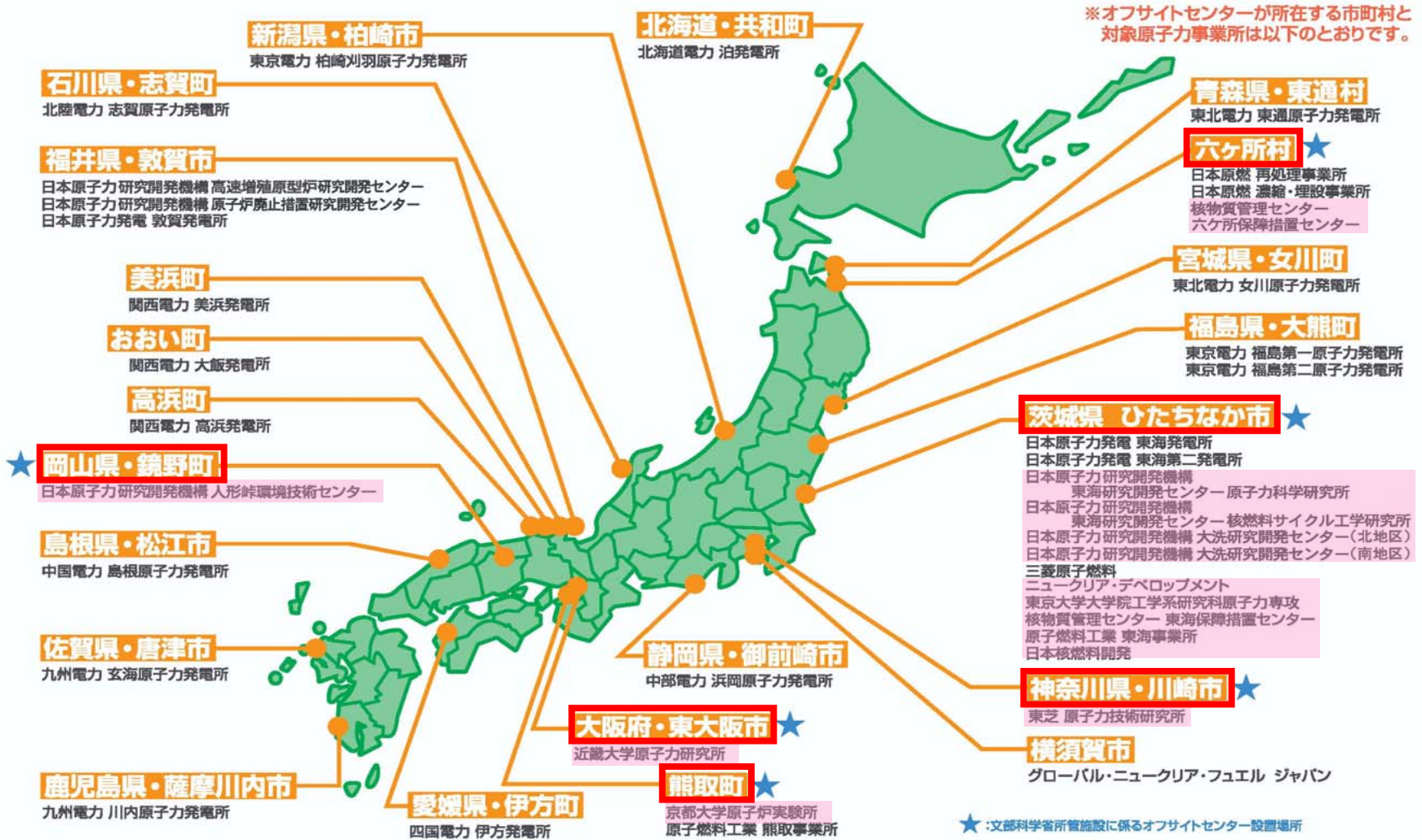
代替施設への避難対応に係る
方針を、オフサイトセンター運営
要領に明記すること。

今後の対応

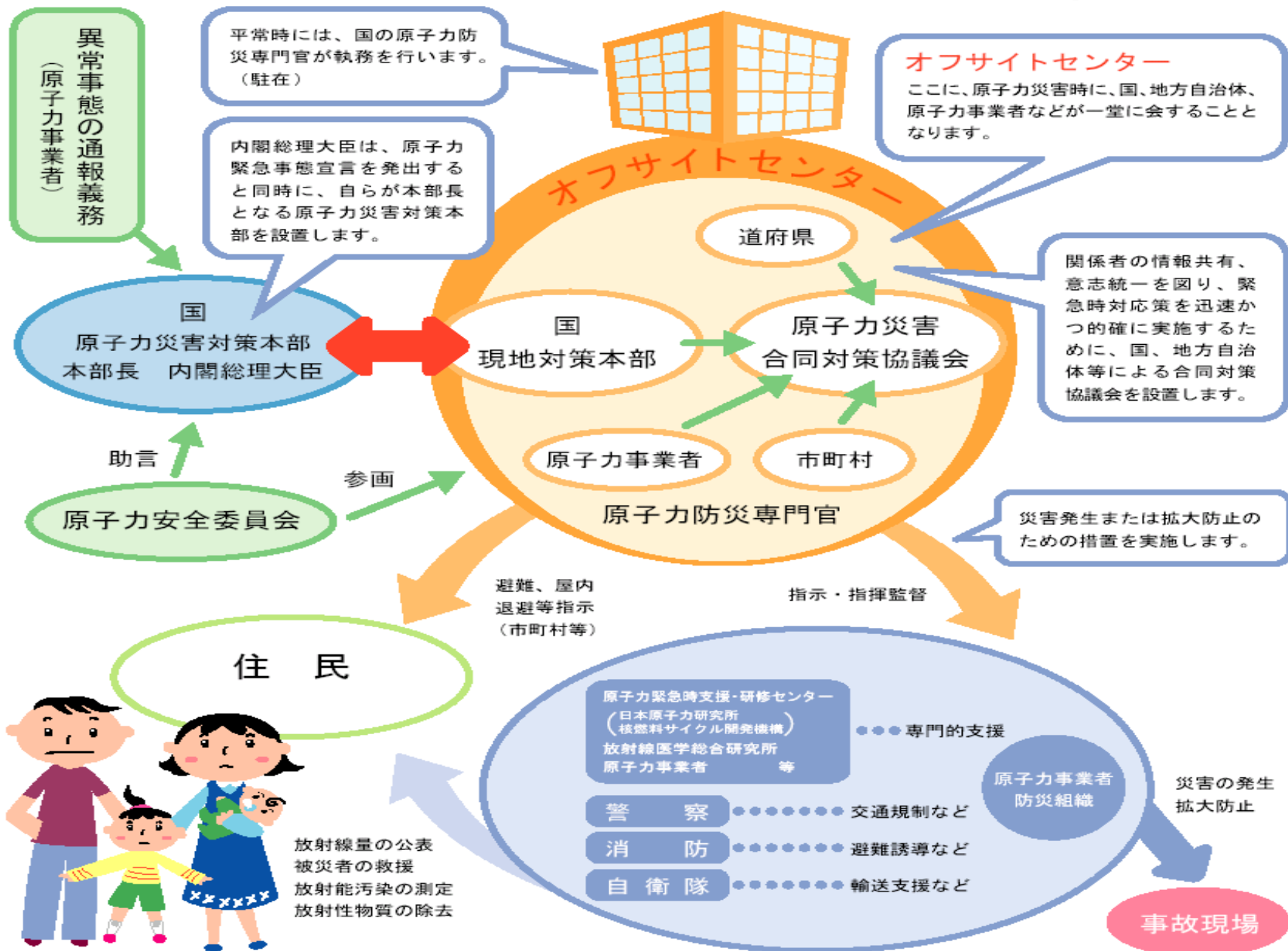
経済産業省及び関係地方公共団体等と協議の上、

⇒ **本年度末を目処に改訂。**

オフサイトセンター設置場所



オフサイトセンターを中心とする原子力防災体制



2. 緊急時迅速放射能影響予測 (SPEEDI) の社会環境情報について

調査結果

SPEEDIシステムに入力されている
社会環境情報

- ①道府県の判断で入力・更新されていたため、更新頻度が低い道府県あり。
- ②要援護者情報が入力されていない。



勧告内容

SPEEDIシステムについて

- ①入力情報の更新頻度を高めるよう運用を見直すこと。
- ②社会環境情報の中に、要援護者情報を整備することについて検討すること。

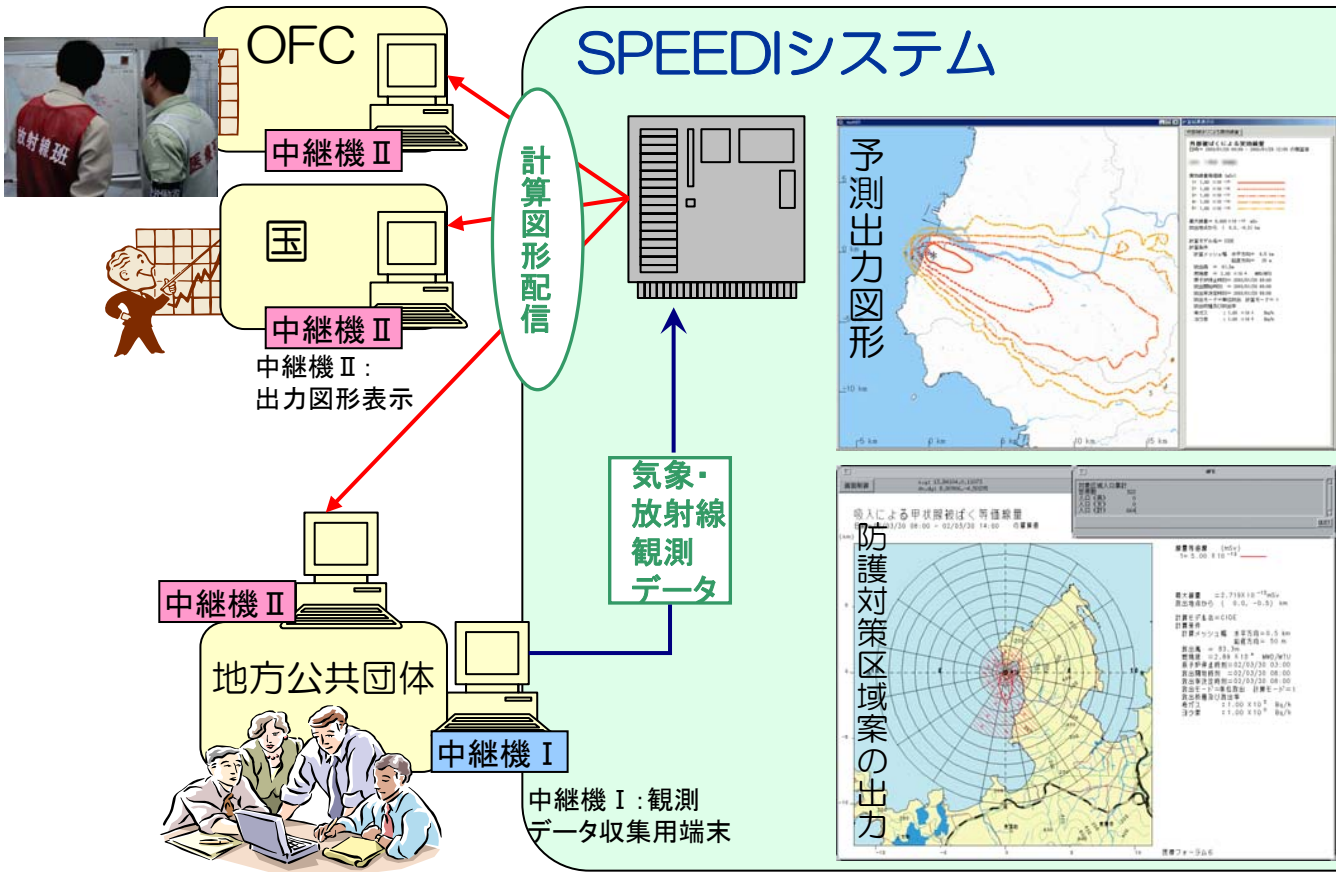
今後の対応

- ①更新頻度：関係地方公共団体と調整しつつ、21年度から適切な更新を図る。
- ②要援護者情報：SPEEDIシステムに入力することの有効性について、21年度中を目処に、関係地方公共団体の意見を聴取するなど調査・検討を実施。

緊急時迅速放射能予測 (SPEEDI) ネットワークシステムについて

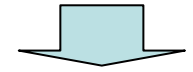
原子力災害時において、大気中に放出された**放射性物質の拡散状況及び予測線量等を計算し、国及び地方公共団体の行う防災対策に寄与。**

平常時：地方公共団体のモニタリングポスト及び気象庁の気象データ等を蓄積し、緊急時に備える。
緊急時：気象、地形及び放出源情報をもとに、風速場、大気中の放射性物質の濃度及び線量の予測計算を行う。



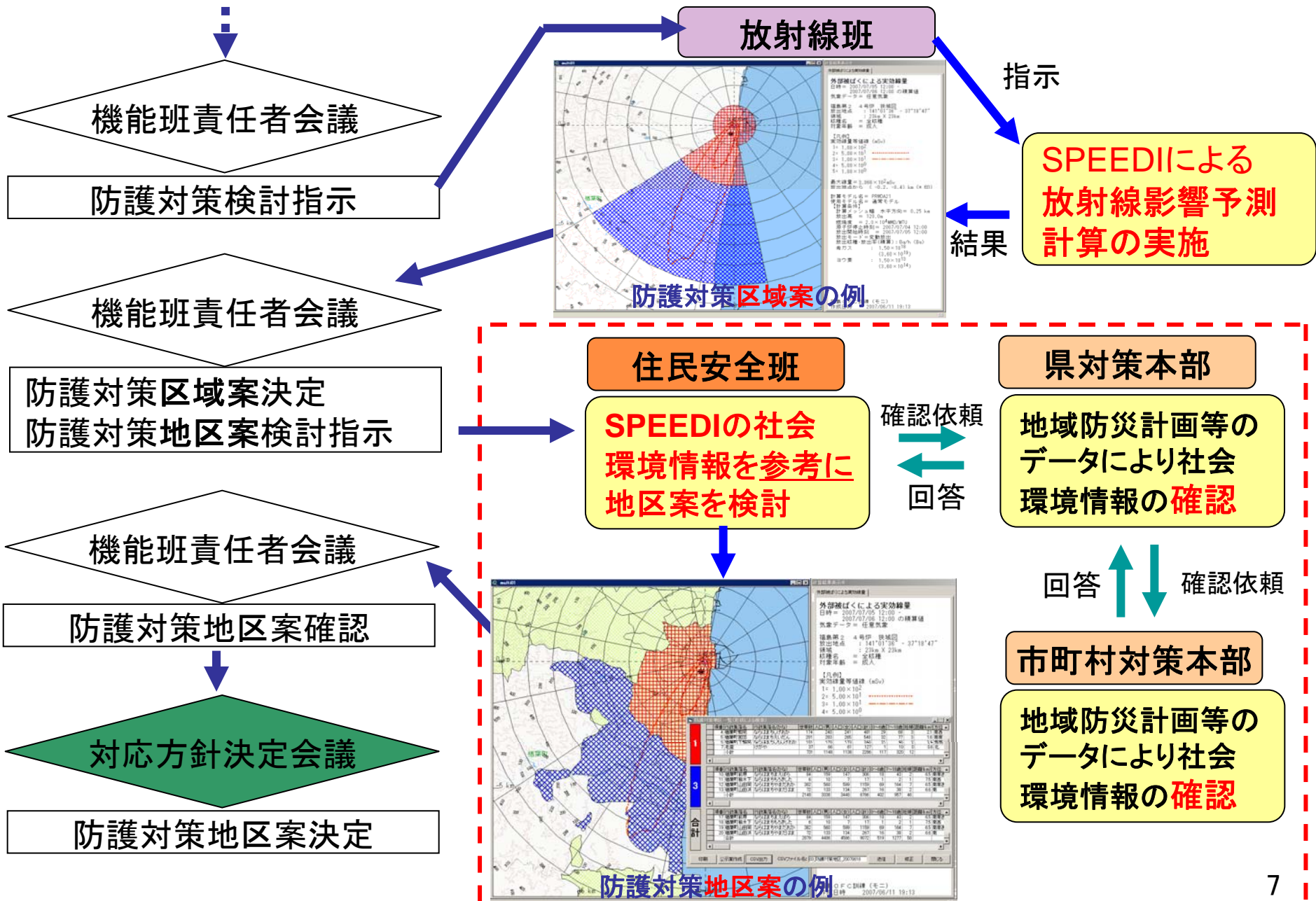
社会環境情報

地区の人口、学校、避難施設等の情報を、影響予測結果の出力図形上に表示することが出来るようデータベース化



OFCの住民安全班が住民避難等のための参考情報として活用

防護対策決定手順における社会環境情報の活用



3. 三次被ばく医療機関への被ばく患者の搬送体制について

調査結果

- 立地・隣接道府県から三次被ばく医療機関への搬送体制
 - ⇒ 13道府県において未整備
- 西日本から放医研までの搬送体制
 - ⇒ 検討が開始されたものの未整備



勧告内容

三次被ばく医療機関が整備を進めている被ばく患者の搬送体制について、実行可能な体制が整備されるようより一層の支援を講じること。

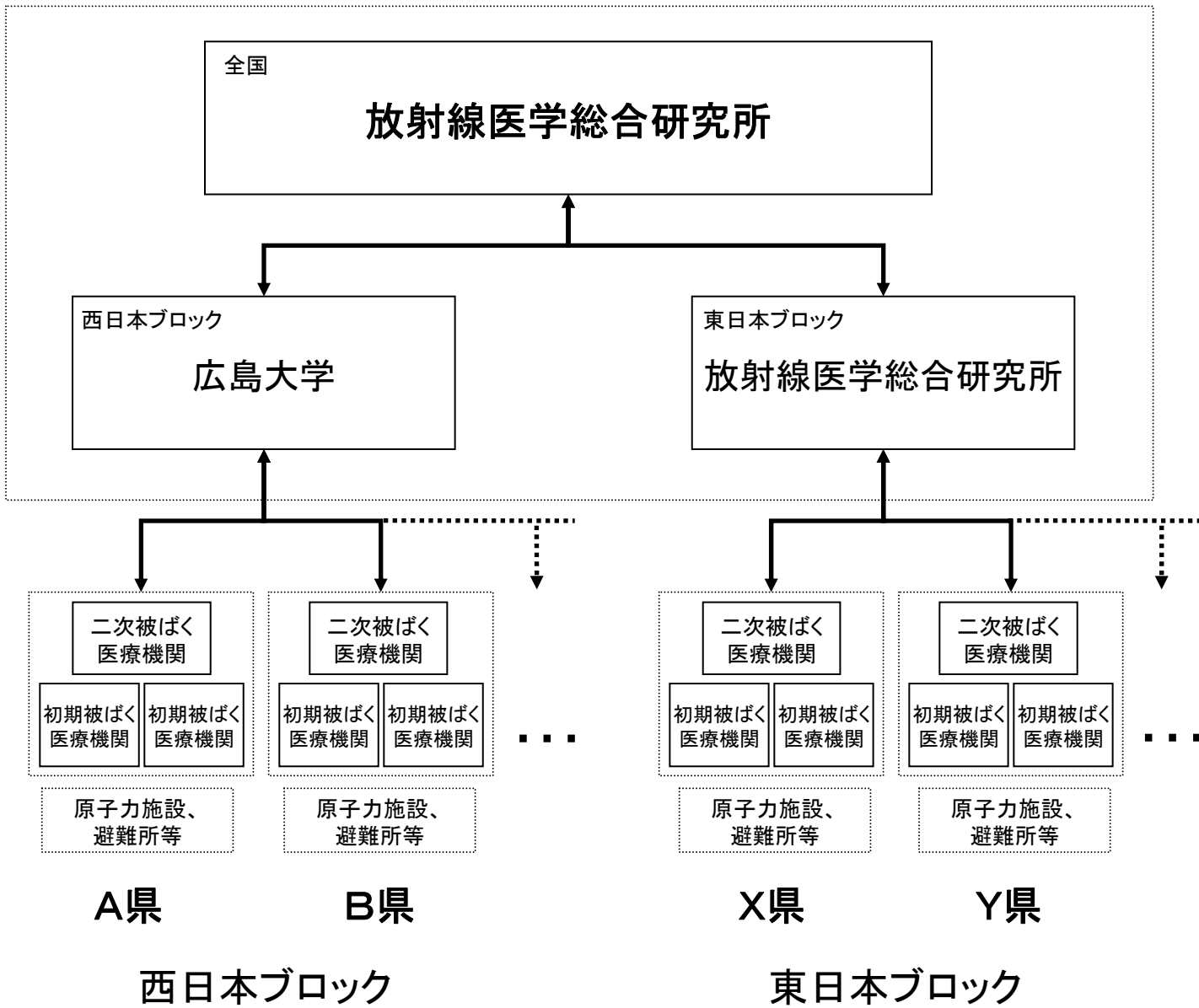
今後の対応

実効可能な搬送体制が整備されるよう、防衛省や地方公共団体等との調整に協力するなど、より一層の支援を講じる。

→ **21年度前半に搬送体制を整備。**

緊急被ばく医療体制の概要図

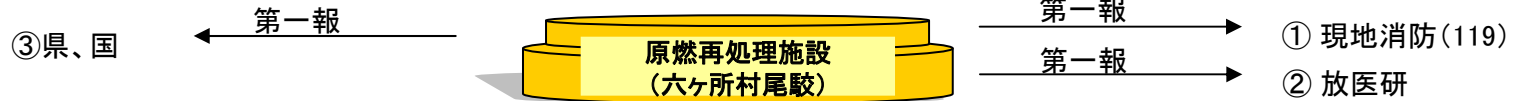
三次
被ばく医療



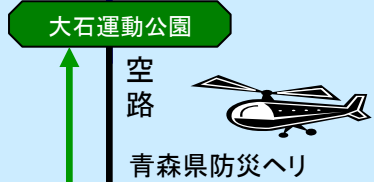
初期・二次
被ばく医療

緊急被ばく医療患者搬送フロー図の例 (青森県(プルトニウムを含む汚染時))

＜被ばく事例1＞
 (1) 発災場所 …………… 原燃再処理施設(六ヶ所村尾駈)
 (2) 患者想定 …………… 合併症を伴うプルトニウムを含む汚染
 ＜搬送先決定の判断ポイント＞
 (1) 「プルトニウムを含む汚染事故」
 ① 緊急性が高い救急救命処置を優先
 ② 体内汚染の有無を確認



青森県防災航空センター→六ヶ所大石運動公園→岩木川河川敷野球場
 (飛行時間合計約48分)
 陸路: 125km(約140分)

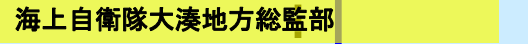


青森県防災航空センター→六ヶ所大石運動公園→八戸市民病院
 (飛行時間合計約38分)
 陸路: 57.3km(約80分)

青森県の三次被ばく医療機関

二次被ばく医療機関

特別な放射線防護必須 救命処置優先

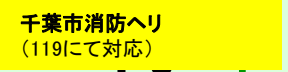


(八戸飛行場から自衛隊機(固定翼)で千葉県の下総基地へ)



千葉市消防へり
 (陸路との併用)

三次被ばく医療機関



支援・派遣

- 助言・専門家の派遣
- ・診断・治療方針
 - ・核種分析、線量評価
 - ・試料、検体の保管、検査
 - ・排泄物、廃棄物の管理



放医研からの支援

ネットワーク

